

故 司馬遼太郎先生を偲んで

阪神・淡路大震災10周年記念事業

菜の花コンサート



指 挥／林 誠 (OB会 音楽監督、大阪音大教授)

榎原昭裕、朝田幸代、木本隆子

ピアノ／南村知佐恵、岡本恵理

出 演／大阪外国語大学グリークラブOB会

五色サルビア・エコー

五色中学校プラスバンド部

と き：平成17年3月27日(日)

午後2時開演

ところ：五色町役場3階 五色文化ホール

主 催：五色町震災復興記念感謝祭実行委員会

後 援：五色町・高田屋嘉兵衛翁顕彰会

五色町文化協会



出演者のプロフィール

大阪外国語大学グリークラブOB会

1997年以後現役グリークラブが部員不足からその姿を消してから先ず東京でOBの集まりがスタートし、関西では2001年からOB会（大阪）としてスタートしました。2001年7月にバッカスフェスタ（関西男声合唱祭）に参加したのを皮切りに徐々に力をつけてミニコンサートを2003年1月26日に第1回、続いて2004年2月1日に第2回を開催しました。又バッカスフェスタには3年連続で出演しています。2004年7月11日に元国立歴史民俗博物館館長で我々グリークラブの先輩の故佐原真氏の追悼演奏会を和泉市の「大阪府弥生文化博物館」で開催しました。2003年11月から大阪音大教授の林誠先生を音楽監督としてお招きして、その合唱技術のレベルアップを計っています。いよいよ2006年は創部80周年を迎えます。4月～5月頃に箕面市のメイプルホールでその記念演奏会を東京・大阪のみならず全国・全世界からOBを集めて開催の予定です。



林 誠

大阪音楽大学卒業、同大学院修了。71年日伊声楽コンクール第3位。日本を代表するテノール歌手として76年大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞、79年再び大阪文化祭賞等を受賞。81年には東京で、創立100周年のため来日した小澤征爾指揮ボストン交響楽団の第9公演にソリストとして出演。82年東京、大阪でのリサイタルに対し芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。大阪音楽大学教授、関西歌劇団理事。03年10月から大阪外大グリークラブOB会音楽監督。



山口慶四郎

1924年神戸市須磨生まれ。1944年、大阪外語卒（司馬遼太郎氏と同期）。軍務につき、サハリン（旧樺太）国境付近で海軍少尉として終戦を迎える。（復員後、大阪府嘱託）1947年から和歌山大学経済学部に勤務、ソ連経済論を担当。1969年より1990年まで大阪外国語大学教授。学生部長、附属図書館長を歴任。この間、ソ連科学院経済研究所へ文部省より派遣され研究活動に従事、また、レニングラード大学（現サンクトペテルブルグ大学）に交換教授として勤務。その他、訪ソ（ロ）を重ねる。現在、大阪外国語大学名誉教授。1976年よりグリークラブ顧問、2001年からOB会名誉顧問。

出演者

第1テノール

伊東 昭廣、柳樂 行雄、上田 哲也
内野 秀樹、北村 照夫、永谷 勉

第2テノール

菅原 基晴、上野 明信、野田 幸孝
鈴木 惟司、柳沢長四郎、牧本 成俊

バリトン

小松千加弘、河盛 龍三、柁山 次雄
紙谷 敬治、宇野 滋夫、岸田 勝昭
佐伯 博史、榎原 昭裕

ベース

岡田吉治郎、安井 祥裕、赤坂 一郎
神田 正見、大西 昌三、村主 寧民
西川 哲朗、橋本 達也、三森 良太

五色サルビア・エコー

「心に残る母の子守歌、どなたかルーツ教えて」尾道市の主婦の新聞投稿が縁で、平成3年1月「五色浜の子守歌」を採譜復活させ、後世への継承を願って「五色サルビア・エコー」を結成しました。そして、日本の心・ふるさとの心の宿る唱歌・童謡を中心に、楽しくハーモニー作りに励んでいます。

町の行事や施設への慰問、淡路での定期演奏会は勿論のこと、阪神・淡路大震災救援チャリティーコンサート・ロシア少年少女合唱団や御殿場合唱団とのジョイント等、他グループとの交流で、歌の輪も広がってきました。今日の菜の花コンサートは阪神・淡路大震災10周年記念事業でもありますが、「菜の花の沖」の作者「故司馬遼太郎氏」の母校の大蔵外國語大学グリークラブOB合唱団の方達と一緒に高田屋嘉兵衛の生誕の我が五色町でジョイントできることをとても嬉しく思っています。

今日は心を込めて、歌います。

出演者 ソプラノ

川口 恭子、十川美智子、中田美智子
西野 純子、森本 善子、氏脇 冷子
毛笠喜代美、土井 照恵、安田美代子
桃井 妙子、秋田 八重、山口富美子
領五 恭子、白石美栄子、藤井 優子
メゾソプラノ

岡本 博子、高田 勝代、堂角田陽子
堀 とよ子、高鍋美美子、武内 昭、
荒井 弘子、岡本 育子

アルト

尾家 初美、白山三枝子、高鍋 福子
原 道子、船越きよ子、中田久美子

テナー

鹿嶋 浩平、久保 雄彦、高鍋 和雄
谷川 大海、船越 正顕



五色中学校プラスバンド部

僕たち私たち五色中学校プラスバンド部1・2年生は男子21名、女子17名、計38名で毎日楽しく活動しています。夏は吹奏楽コンクール、高田屋祭たそがれコンサート、秋は郡や全淡の音楽会、冬は町のなかよし音楽会、消防出初式、春はふるさと芸能祭などたくさんの行事に参加し、仲間と共に感動を味わってきました。また、町内の診療所や老人施設、精光園などへ慰問演奏に行き、音楽を通して多くの人たちと出会い、貴重な体験をさせてもらっています。上手な人、熱心な人、少しさぼる人、吹けているふりをしている人、楽器より歌や踊りがうまい人、それぞれが自分の持てる力を発揮し、今日は精一杯演奏します。そして特別ゲストとして五色の若大将、五色の寅さんもお迎えしています。

満開の菜の花たちも踊り出すような楽しい演奏をどうぞお聞き下さい。



「菜の花コンサート」プログラム

第1ステージ 五色中学校ブラスバンド部 ————— 指揮:木本 隆子

- 演奏曲目 : 1. マツケンサンバⅡ
2. 君といつまでも 特別出演 歌 吉津教頭先生
3. 男はつらいよ 特別出演 歌 高倍校長先生
4. 日本の情景 ~春~

第2ステージ 五色サルビア・エコー ————— 指揮:朝田 幸代 ピアノ:岡本 恵理

- 演奏曲目 : 1. さくら (作詞・作曲:森山直太郎)
2. 夕やけこやけ (作詞:中村雨紅、作曲:草川 信)
3. 砂山 (作詞:北原白秋、作曲:山田耕筰)
4. われは 海の子 (文部省唱歌)
5. 花～すべての人の心に花を～ (作詞・作曲:喜納昌吉)

第3ステージ 大阪外国語大学グリークラブOB会

- 演奏曲目 : 1. Sea Shanty:Whup Jamboree ————— 指揮:榎原 昭裕
Shenandoah
ロシア民謡:ボルガの舟歌
カリンカ

2. 山口慶四郎先生の講演

「司馬遼太郎と高田屋嘉兵衛」

3. 男声合唱組曲 「月光とピエロ」(作詞:堀口大学、作曲:清水 僥) - 指揮:林 誠
1) 月夜
2) 秋のピエロ
3) ピエロ
4) ピエロの嘆き
5) 月光とピエロとピエレットの唐草模様

第4ステージ 合同演奏

1. 「ふるさとの四季」(源田俊一郎編曲)より - 指揮:榎原 昭裕 ピアノ:南村知佐恵
ふるさと
春の小川
おぼろ月夜 (榎原昭裕 補編曲)
2. 「五色浜の子守り歌」 ————— 指揮:朝田 幸代 ピアノ:岡本 恵理

曲目解説

Sea Shanty

18世紀から20世紀初頭にかけ、船はまだ帆船が中心で、帆や、錨、貨物の上げ下ろしは全て人力でした。このため、舟には多くの水夫が乗り込み、こうした作業をしていたのです。

この厳しい作業中や休憩の時などに唄が歌われていました。こうした唄をシーシャンティ（Sea Shanty）と呼んでおり、この中には数々の名曲があります。今回は、その中から2曲を選びました。

Whup!Jamboree

Whup!Jamboree（ウワップジャンボリー）は、長い航海を終えて、いよいよ故国アイルランドに帰る喜びを歌っています。ウワップと言うのは「したたかに打つ」と言う意味がありますが、ここは掛け声として、使っています。函館からいよいよ兵庫に帰る「辰悦丸」の船上でも、さぞかし賑やかだったのではないでしょうか。

1. Now my lads, be of good cheer,
For Irish land will soon draw near,
In a few more days, we'll sight Cape Clear,
O Jenny, get your oatcake done.
Whup ! Jamboree, Whup ! Jamboree
O you, some-time sailor, haul up-on the line,
Whup ! Jamboree, Whup ! Jamboree,
O Jenny, get your oatcake done.

2. Now Cape Clear, it is in sight,
We'll be off Holyhead by tomorrow night
And we'll shape our course for the Rock light,
O Jenny, get your oatcake done.
Whup ! Jamboree — 繰り返し —

3. Now my lads, we're round the Rock,
All Hammocks lashed and chests all locked,
We'll haul into the Waterloo Dock.
O Jenny, get your oatcake done.
Whup ! Jamboree — 繰り返し —

4. Now my lads, we're all in dock,
We'll be off to Dan Lowrie's on the spot.
And now we'll have a goo round-about,
O Jenny, get your oatcake done.
Whup ! Jamboree — 繰り返し —

1. さあ、みんな、元気を出せ
国は近いぞ、3日もすれば、
ケープクリア（島）が見えてくる。
ジェニーよ、ケーキを焼いておけ。
ほら、ジャンボリー、そら、ジャンボリー
さあ、みんな、しっかり綱を引け、
ほら、ジャンボリー、そら、ジャンボリー
ジェニーよ、ケーキを焼いておけ。

2. さあ、ケープクリア（島）が見えてきた。
明日の夜にはホーリー・ヘッドを離れ、
ロック灯台へ向かうぞ、
ジェニーよ、ケーキを焼いておけ。
ほら、ジャンボリー、そら、ジャンボリー

3. さあ、みんな ロックを回ったぞ、
ハンモックを片付け、棚に鍵を掛けろ、
ウォタールーにドック入りだ。
ジェニーよ、ケーキを焼いておけ。
ほら、ジャンボリー、そら、ジャンボリー

4. さあ、みんな、ドックに入ったぞ。
ダンローリーの店に直行だ。
みんなで大いに楽しもう。
ジェニーよ、ケーキを焼いておけ。
ほら、ジャンボリー、そら、ジャンボリー

Shenandoah

Shenandoah (シェナンドー) ですが、これはアメリカの曲です。開拓時代、先住民の酋長、シェナンドーの娘に恋をした水夫の物語を、歌ったものと言われていますが、シェナンドー河と掛けられています。恋する酋長の娘を思いながら、ミズリー川を越えて、大海に漕ぎ出していく切ない気持ちを歌っています。「辰悦丸」で誰よりも早く早春に兵庫から沖乗りで北前の航路を乗り切った嘉兵衛の心には何時も「おふさ」さんを思う気持ちがあった事でしょう。

1. Oh, Shenandoah, I long to see you,
And hear your rolling river,
Oh, Shenandoah, I long to see you,
Way, we're bound away,
Across the wide Missouri.

2. I long to see your smiling valley,
And hear your rolling river,
I long to see your smiling valley,
Way, we're bound away,
Across the wide Missouri.

3. 'Tis sev'n long years since last I see thee,
And hear your rolling river,
'Tis sev'n long years since last I see thee,
Way, we're bound away,
Across the wide Missouri.

4. When first I took a rambling notion,
To leave your rolling river,
To sail across the briny ocean,
Way, we're bound away,
Across the wide Missouri.

1. おお、シェナンドー河よ、おまえに会いたい、
そして、あの逆巻く河に、
おお、シェナンドーよ、おまえに会いたい、
俺達は、はるか向こうへ行かねばならない、
あの広いミズリー川を越えて。

2. おまえの、微笑むような谷が見たい、
そして、あの逆巻く河に、
おまえの、微笑むようなあの顔が見たい、
俺達は、はるか向こうへ行かねばならない、
あの広いミズリー川を越えて。

3. おまえや、あの逆巻く河を見てから、もう7年
も経ってしまった。
おまえに会ってからもう7年だ。
俺達は、はるか向こうへ行かねばならない、
あの広いミズリー川を越えて。

4. 思い立って、俺は腹を決めた。
おまえの逆巻く河を出て、
大きな海を渡ると。
俺達は、はるか向こうへ行かねばならない、
あの広いミズリー川を越えて。

男声合唱組曲「月光とピエロ」

今やクラシックとも言えるこの合唱曲は男声合唱の真髄を聞かせるものです。

作曲者の清水 僕氏は我々大阪外国語大学の前身である大阪外国語学校の卒業生でグリークラブのメンバーとしても活躍され、我々にとっては大先輩に当ります。「ピエロ」を題材に男の哀歎を歌い上げています。

作詞：堀口大学

月夜

月の光の照る辻に、ピエロさびしく立ちにけり。
ピエロの姿白ければ、月の光に濡れにけり。
あたりしみじみ見渡せど、コロンビイヌの影もなし。
あまりに事のかなしさに、ピエロは涙流しけり。

秋のピエロ

泣き笑いしてわがピエロ、秋じや！秋じや！と歌うなり。
O（オー）の形の口をして、秋じや！秋じや！と歌うなり。
月のようなる白粉の、顔が涙を流すなり。
見すぎ世すぎの是非も無く、おどけたれどもわがピエロ。
秋はしみじみ身にしみて、真実なみだを流すなり。

ピエロ

ピエロの白さ！身のつらさ！
ピエロの顔は、真っ白け！
白く明るく、見ゆれども、
ピエロの顔は、さびしかり！
ピエロは、月の光なり！
白く明るく見ゆれども、
月の光はさびしかり！

ピエロの嘆き

かなしからずや、身はピエロ、
月のやもめの父無し児！
月はみ空に身はここに、見すぎ世すぎの泣き笑い！

ピエロと

ピエレットの唐草模様

月の光に照らされて、ピエロ、ピエレット、
踊りけり、ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて、ピエロ、ピエレット、
歌いけり、ピエロ、ピエレット
踊りけり、ピエロ、ピエレット、
歌いけり、ピエロ、ピエレット。
踊りけり、歌いけり、ピエロ、ピエレット、ピエロ、ピエレット
月の光にてらされて、ピエロ、ピエレット、ピエロ、ピエレット
月の光にてらされて。

五色浜の子守唄

瀬戸内海に浮かぶ最大の島、淡路島。ここは天候が温暖で、古くから四国、特に阿波とは関わりが深い反面本州との隔絶性が固有の文化を発達させています。

この島にある五色町は淡路島西海岸の中央部に位置し、五色の鮮やかな石が敷きつめられた海岸が4キロメートルにわたり、白い波が色とりどりの石を洗っています。

この地方で幻の子守唄となりかけていた『五色浜の子守唄』があります。この唄は昭和の初めまではラジオから流れていたということですが、その後はほとんど唄われなくなってしまったそうです。

これを惜しんで地元の元音楽教諭の高鍋和雄氏が採譜し、再現されたもので、有志による混声合唱団「五色サルビア・エコー」によって歌い継がれています。

詠み人知らずのこの唄は、広島県や愛媛県、遠くは秋田県などでも歌われており、地方によって少しメロディーが違います。しかし故郷への思いをかりたてる哀愁を帯びた調子は引き継がれています。

五色浜の子もり歌
しみじみと 採譜 高鍋和雄

ねんね ころころ浜の石
ころころ ころんでどこへ行く
波にゆられて淡路島
通う千鳥の浜へ行く
わたしも行きたい 夢の島
夢の島には 五色浜
珠よりきれいな白い石
星よりきれいな青い石
泣けば千鳥が 飛んで行く
泣かずにはいきましょ 夢の島

作者：不詳 採譜編曲：高鍋和雄